

京ヶ峰の四季

第54号

2016年春号



満開の桜と本館 ～京ヶ峰を望む

「チームワークの大切さ」

昨年開催された「ラグビーワールドカップ2015」での日本代表チームの活躍は記憶に新しいところです。日本チームの開幕戦で、W杯に2度優勝し世界ランク3位の南アフリカ代表にラストプレーでの逆転により勝利しました。日本にとって24年ぶりのW杯勝利は、海外のメディアによれば、「W杯史上最も衝撃的な結果」、「スポーツ史上最大の番狂わせ」と日本を褒めたのか、南アフリカをけなしたのか、微妙なコメントでした。しかしながら、ラグビーがこれほどメジャーなスポーツとして、日本で認知されたのもこの勝利のおかげといっても過言ではないような気がします。

ラグビー、サッカーといった団体スポーツには、組織だった攻撃、守備が重要だといわれています。特にラグビーは、15人の選手それぞれの体格、能力により役割が決まっています。個々の役割がしっかり連携して果たされなければ、なかなか勝つことができないことから、先ほどのメディアコメントは、一方では「偶然やラッキーでは勝てない」という意味も含んでおり、日本チームにとって最良の評価かもしれません。

企業や事業体においても、その事業目的を達成するには、組織力の強さ、職員のチームワークが大切だと感じています。当院の基本理念である「一人ひとりの患者さまの幸せのために」を実践するには、「チーム医療」として職員それぞれが与えられた役割をしっかりと果たすことと、チームみなさんの実力を高めることで、患者さまに最善の医療が提供できるものと考えます。一人でも欠けたり、一人でも違った方向を向けば、チームワークが乱れ患者さまを幸せにすることはできません。

ラグビーでは、全選手がそれぞれの役割を果たして相手ゴールへボールを運ぶとトライとなり得点を挙げることができます。そしてトライの褒美としてゴールキックが与えられます。このキックこそ、昨年のW杯で一躍世界中のファンを魅了した五郎丸歩選手のあの独特のポーズからゴールポストめがけボールを蹴り上げるシーンです。彼のあの独特なポーズは、「入ってくれ」との願いと同時に、このキックを自分に与えてくれた「14人のチームメイトへの感謝」のポーズに思えてなりません。

京ヶ峰岡田病院
人事部長 岸田 孝一

基本理念

一人ひとりの患者さまの幸せのために
～ For the Patients ～

地域懇談会報告

京ヶ峰岡田病院「第13回地域懇談会」開催のご報告

- 日 時：平成28年3月18日(金) 14:00~16:00
- 会 場：京ヶ峰岡田病院 ソーシャルセンター2階 京ヶ峰ホール
- 出席者：(36施設 43名)
保健所、市町村役場、社会福祉協議会、医療機関(他科)、相談支援事業所、障害福祉サービス事業所、地域活動支援センター、警察署、消防署、家族会、地元区長

1. 当院の地域生活支援の状況(統計)

- 受診相談の状況 ▶ 180件(平成27年)**
9割以上が電話による相談で、半数以上が入院相談。診療時間外や夜間の時間帯が増加。児童相談所からの相談が大幅に増加。
- インテーク面接(予診)の状況 ▶ 483件(平成27年)**
年齢別で70歳代以上の高齢者の入院希望が増加。疾患別では、統合失調症圏が減少し感情障害圏が増加。
- 退院後の動向(退院時と3ヵ月後の状況) ▶ 521名(平成26年の退院者の動向)**
8割弱の方が3ヶ月未満で退院され、7割の方が自宅への退院。3ヶ月後(転院・死亡・不明を除く)は7割弱の方が通院継続、1割が再入院。
- 精神科訪問看護指導の状況 ▶ 登録者272名(平成27年末)**
岡崎・幸田近辺から、東三河など。遠方も3%程度。4割弱の方が4週間に1回の訪問頻度。
- 精神科デナイトケアの状況 ▶ 登録者170名(平成27年末)**
5割の方が病院巡回バスを利用。6割の方が退院直後の利用。一般障害者枠の就労や福祉サービス(就労系)などの利用も増加。



2. 意見交換や当院への要望(一部紹介)

- | | |
|--|---|
| <p>Q 相談支援主催の担当者会議を開催する場合、主治医や精神保健福祉士さんはどの程度参加の調整が可能でしょうか?</p> <p>A 精神保健福祉士が主治医に意見を聞いて調整がつけば極力参加をしている。当院でケア会議を開催する時は、主治医も参加している。個別に相談して欲しい。</p> | <p>Q 自傷他害の恐れのある人は23条通報で対応でき、17:00以降の時間帯では救急当番病院になるが、日中時間帯に対応してもらえる医療機関がない。警察から直接、医療機関に相談しても良いか?</p> <p>A 連絡してもらえれば良い。ベッドの空き状況などを考慮し検討するので、入院の約束は出来ないがまずは連絡して欲しい。17:00直前などの時間帯は空きのないようにしていきたい。相談室が受けると副院長・医局長と相談し返事をしている。地域の人は受けていきたいと思っている。</p> |
|--|---|



総括

副院長 岡田京子
最近3ヶ月以内に多くの方が退院できる時代となっています。退院後の生活で地域の関係機関の方々の支えがとても大切となりますので、ご協力をお願いしたいです。長期入院者の地域移行は大きな課題と考えています。地域

での福祉サービスなどの受け皿が重要となってきますが、これからは当事者の力も必要になってきます。お互いに良い関係を築き、地域に貢献できればと思います。

検査システム更新のお知らせ

血液検査の分析装置が新しくなりました

薬検部(臨床検査)

私たち臨床検査室は外来、入院、救急、時には地域の施設から紹介の患者さんの血液・尿など、患者さんの体自体を検査しているところです。
このたび、血液検査の分析装置の老朽化に伴い、新しい分析装置を導入しました。新しい分析装置は1度に36項目、1時間に400の検査を実施することができ、院内で主要な5種類の薬剤濃度(リチウム・ハロペリドール・プロムペリドール・バルプロ酸・カルバマゼピン)、HbA1c、梅毒、Dダイマーの検査が可能となりました。
精神疾患と血液検査はやや縁遠い関係に思われがちです

が、お薬の副作用が出ていないか肝機能・腎機能・骨髄機能を見たり、お薬に起因する生活習慣病の発症などの経過を調べたりします。何より迅速に検査できることは、緊急性のある身体疾患を見逃がさないためにも非常に大切なこととなります。
新しい分析装置の導入で受診される皆さまの安全をより一層高めることに貢献していきたいと思っております。



検査システム

研究発表

日頃の業務から得る気づきをもとにした研究をまとめ、院内で共有する「院内研究発表会」を開催いたしました。日頃の業務とは別に研究として取り組み、作りあげていくことは大変な作業でしたが、自部署の仕事を見直すきっかけとなりました。また、他部署の仕事がわかる、よい機会となりました。

第1部 看護部

- つなぎ服からの学び ~認知症患者のQOLへのアプローチ~
[葵2病棟] 源 美穂子
- コミュニケーションによる暴力軽減への試み
~ホールに出ようよ 振り上げた拳が握手に変わることを願って~
[北1病棟] 小池 佳美
- 患者の意思を尊重した退院への取り組み
[西病棟] 鈴木 直美
- 看護師のストレス調査 ~病棟の特殊性を踏まえて~
[中病棟] 足立 真衣

第2部 コメディカル

- 患者の薬受け取り待ち時間短縮の為に工夫・改革
[薬検部] 関 壮史
- 当院における訪問看護の現状と課題について
[訪問看護室] 持城 栄子
- デナイトケアセンタースマイルの現状と課題
[PSW部] 辻川 幸博



栄養士から季節のおすすめ



お買い物をしていて商品の顔ぶれがだんだん変わってきているのに気づくと、四季の移ろいを感じウキウキしますね♪

青果コーナーではアスパラガスがたくさん並び少しお値打ちになってきたようです。輸入やハウス栽培などもあるため一年を通して出回りますが、旬は春から初夏にかけて。その栄養はビタミンE・K、葉酸、βカロテン、カリウム、鉄分などビタミン・ミネラルを

バランスよく含んでいます。また、アスパラガスから見つけたことから名付けられたアスパラギン酸は疲労回復に、穂先の部分に多く含まれるルチンはポリフェノールの一種で血管を丈夫にして血圧を下げる働きをしてくれます。

アスパラガスにはグリーンとホワイトがありますが、その違いは栽培方法によるもので品種は同じということを知っていますか?グリーンはお日さまの光をたっぷり当てて育てたもの、ホワイトは発芽後すぐに盛り土などで日光を遮り育てたもの。グリーンの方がビタミンなどの栄養価は高いものの、ホワイトは独特の香りと甘みがありヨーロッパでは春の味覚として大人気です。他に品種の違う紫アスパラガスもあります。色の秘密はアントシアニンで、その量はグリーン約10倍。

旬を迎えたアスパラガス、グリーンだけでなく珍しいホワイトや紫が生で手に入ったらそれを使ったお料理に挑戦してみたいです。



行事報告



「新春コンサート」1月18日(月)

「ホットアンサンブル・スイートハート」にお越しいただき、新春コンサートを催しました。なつかしいメロディーに合わせて、口ずさむ方も大勢いらっしゃいました。



「手作りの日」2月17日(水)

「手作りの日」と称して、栄養科が心をこめた料理をご提供しました。

【献立】カレーライス、タンドリーチキン、ピクルス、チョコムース



「室内ゲーム大会」3月9日(水)

午前には缶積み、棒つかみ、うちわけん玉、座布団かさね、風船つかみなどを自由参加で行いました。午後はエントリー方式で双六、紙飛行機コンテスト、新聞紙ちぎり、病棟対抗『モルック』などを行いました。モルックは中日新聞にも掲載され、観戦者も多く歓声があがりました。入院患者さん、デイケアをあわせて200名余りの方が楽しみました。



「第4回愛知県精神障害者フットサル大会(オーシャンズカップ)」3月11日(金)

岡崎市中央総合体育館で12チームが参加しました。デイケアのT.M.F.Cチームは初めて2勝することができ、第5位の成績でした。試合の間では、名古屋オーシャンズのサテライトチームと一緒に練習をし、交流戦も行いました。



「三河地区有志病院レクリエーション交流会ビーチボールバレー大会」3月28日(月)

岡崎市体育館で開催されました。7施設から8チームが参加しました。当院からは「ポパイチーム」と「オーブチーム」の2チームが参加し、ポパイチームが優勝！ オーブチームは3位でした。

作品募集のお知らせ

来る6月29日～7月3日に第11回京ヶ峰倶楽部展を開催いたします。今年のテーマは「ならぶ」。テーマにちなんだ作品を募集いたします。絵画、手芸、工作、書道など、入院・通院の患者さんの作品が対象となります。応募方法、時期など、詳しくは当院リハビリテーション部までお問い合わせください。

おすすめコーナー

【今号のおすすめ】いま川屋のあんこ

西尾市のメイン通りから少し入ったところに、20年以上前からあるプレハブ小屋(?)。大判焼き、みたらし団子、焼きそば、たこ焼き等々を売っているんです。大判焼きのあんこが甘すぎず、とっても美味しいですよ～。でも、みたらし団子も美味しいんだな～、これが。つまり、どれも美味しいってこと。売り子のおばちゃん達もとてもいい人で～す。一度ご賞味あれ。

看護部 葵3病棟 平岩

※前号にて、今号の執筆担当を滝尻さんご紹介しましたが、平岩さんに変更いたしました。

※次号は、人事部の山口さんが担当します。よろしくお願いします。



編集後記

新年を迎えたと思ったら、もう「京ヶ峰の四季・春号」の発行です。PCやスマホの画面が、タッチ一つで変わるように、世の中の動きが瞬く間に変化していきます。年月の過ぎるのをとても早く感じるのは、子供の頃と比べて新しく経験することや学ぶことが少なくなっているからと、どこかで読んだ事があります。新しく学ぶことを増やして、少しでも時間の流れを遅くすることで、若く留まりたいと思う今日この頃です。

広報委員 筒井

